



平泉世界遺産関連景観緊急対策事業

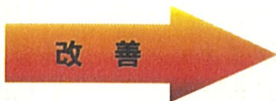
～平泉の世界遺産登録へ向けた県土整備部の取り組み～

県南広域振興局土木部

県南広域振興局土木部では平成 19 年度最重要課題として、世界遺産のコアゾーンとコアゾーン間を連絡する主要ルート内のガードレール（防護柵）等の色彩・形状をガイドラインに即して周囲の景観に融和するものに改善しました。

色彩は従来の白色から景観に配慮した色彩へ、形状は視野を遮らない透過性の高いものへ改善したことで、平泉の文化遺産の景観に対する影響が軽減されました。

白が目立つ
景観をさえぎる



透過性に優れた構造
景観に配慮した色彩

防護柵（主要地方道平泉殿美溪線）



防護柵（平泉町道・金鷄山入口）



デリネータ（主要地方道平泉殿美溪線）



平泉のコアゾーン（平成 17 年 7 月確定）

- [1] 中尊寺境内、[2] 毛越寺境内、[3] 柳之御所遺跡、[4] 無量光院跡、[5] 金鷄山、[6] 達谷窟、
[7] 骨寺村荘園遺跡、[8] 白鳥館遺跡、[9] 長者ヶ原廃寺跡

※世界遺産のコアゾーン（核心地帯）は文化財保護法などの国内法の指定を受け、その遺産が恒久的に保護されることが必要です。全ての文化遺産が文化財保護法の指定を受けています。